

## 全学共通教育「日本語」「日本事情」

「日本語」 日本語 1、日本語 2、日本語 3、日本語 4

平成 18 年度の共通教育の「日本語・日本事情」は以下のものであった。

コーディネーター

大石寧子

### 日本語 1 [前期]

人数： 8 名（中国 4 名、マレーシア 4 名）

使用教材：『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他

The Japan Times

本講義では、テキストを中心に各課のテーマを扱いながら進めていった。授業の流れとしては、まず課ごとにテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、ロールプレイや聴解問題、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学で生活していく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できるようになることを目標とし、実際に遭遇するだろうと思われる場面を設定して練習を行った。

### 日本語 2 [後期]

人数： 13 名（中国 8 名、韓国 3 名、アメリカ 2 名）

使用教材：『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』、佐々木瑞枝他

The Japan Times

本講義では、テキストを中心に各課のテーマを扱いながら進めていった。授業では、まず各課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、スピーチやレジュメ作り、ディベートなどの実践的な活動を行った。留学生が大学での様々な場面に対応できるように、実際の講義やゼミでの演習などを想定しながら、より実践的な作業を取り入れた。知識としての日本語ではなく、学んだことを実際の場面で生かせるように、様々な場面を模擬体験し、フィードバックする機会を多くした。

### 日本語3 [前期]

人数： 7名 (中国)

使用教材：日本語「Eメールの書き方」 The Japan Times

四技能（読む・書く・話す・聞く）中、特に「書き」の力の向上を図ることを目的としたクラスである。大学生活で必要とされていて、尚且つ文章能力が磨ける「Eメール」を題材として授業を進めた。受講者の日本語能力に差が見られたので、①敬語、受身をはじめとして文法の復習②目的に合わせて短い文で的確に意味を伝える文章力の育成③メール・手紙の決まりごと等を中心に行なった。クラスでは毎回ドキュメントカメラ（DC）を使用して、メール文の添削を行った。また宿題として担当教員へ目的に合わせてメールを送信し、実際の場面での練習を行なった。

### 日本語4 [後期]

人数： 13名 (中国10名、韓国3名)

使用教材： 「ピアで学ぶ大学生の日本語表現」 ひつじ書房

「書き」の力の向上を図ることを目的としたクラスで、大学生活で必須の「レポート作成」をテーマとした。レポートの中でも論証型のレポートの作成とし、各自がテーマを決め、作成の過程に沿って、実際各自で書き進めていった。この過程の中で2人ないし、3人で質問をかわしあい、論証や反論の糸口としたり、第三者の視点をもらったりというピアワークをかなり取り入れた。また、付属図書館の協力を得て図書館の利用方法や文献検索ガイダンス等の実施も行なった。各自のレポートタイトルは以下のようなものである。

- 1 環境問題の解決に食品トレーのリサイクル率を高めるべきか
- 2 韓国の早期留学ブームについて
- 3 総合学習はつづけるべきか
- 4 家庭内暴力を減らすために伝統的な家庭観を変えるべきだ
- 5 人工妊娠中絶を禁止するべきか
- 6 現在の大学の授業は変わっていくべきか
- 7 学生時代にアルバイトをすべきか
- 8 結婚後、子供を生むべきだ
- 9 留学することは価値がある
- 10 少子化の影響を最小限に受け止めるには政府が安定した社会作りをすべきである
- 11 環境と人間のために自動車に対する認識を変えるべきである
- 12 現代の人間は結婚すべきか
- 13 詐欺事件が多発している今、消費者はインターネットでの買い物をやめるべきか



## 日本語 8 [後期]

人数： 3名 (中国)

使用教材： 生教材「NHK クローズアップ現代」及びそれに関する自主教材

四技能の向上を目指すと共に、特に「話す・聞く」の力を伸ばすことを目標とした。前期の日常生活についてのテーマや語彙から少しレベルアップを図り、今話題になっているテーマや語彙の獲得を目指し、NHK「クローズアップ現代」の中から3編を使用した。各回の流れは、①初見で、全体の把握及びキーワード、キーセンテンスの獲得②語彙・表現の獲得③そのテーマについて調べ、自分の意見の発表である。②に関しては、そのテーマの背景となる状況、機関、用語、例えば「総合学習とは」「NPOとは」などを各自で調べて発表し、語彙の獲得と共に発表の際の話し方の練習も行った。今回は小クラスだったため日本人学生に各編のまとめに参加してもらい意見交換、自国と日本との違い等話し合いの機会を積極的に取り入れた。

「日本事情」	日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ
--------	-------------------------

### 日本事情Ⅰ [前期]

人数： 11名 (中国5名、マレーシア4名、ブルガリア 1名、韓国1名)

教材： 自主教材 (PowerPoint で提示)

- 授業内容：
- 1) キャンパス内の建物配置を学ぶ
  - 2) 本学学年暦を学ぶ
  - 3) 文化・生活面での年間行事を学ぶ
  - 4) 日本人学生との付き合い方の基本を学ぶ

### 日本事情Ⅱ [後期]

人数： 19名

(中国10名、マレーシア4名、韓国3名、ブルガリア1名、アメリカ1名)

使用教材： 自主教材 (PowerPoint で提示)

- 授業内容：
- 1) 日本の歴史を学ぶ
  - 2) 新聞を通して日本の諸問題を学ぶ
  - 3) 日本のPOPカルチャー (アニメ) について学ぶ

### 日本事情Ⅲ[前期]

人数： 10名（中国 9名、韓国 1名）

使用教材： ・「過渡期の日本を考える」三巻陽子他（1997）凡人社 より抜粋  
・雑誌、新聞記事

メインテーマを「日本・日本人を知る」とし、小グループに分かれて自分達のテーマを決め、調査し、その過程で各自新しい語彙や知識を獲得し、最終的には発表をするというプロジェクトワークとした。前半は、基礎的な知識や情報を得るため、用意した教科書の抜粋や雑誌・新聞記事を使用し、テーマについてクラスでのディスカッションや自国との比較などを中心として行なった。後半は、グループに分かれて決めた調査テーマに従って、作業や調査を行い、毎回各グループが進捗状況を報告し、共通作業として「アンケート」の作成、集計の方法を学んだ。また、地域や日本人学生に各自のテーマについて聞き取り調査も行ない、最終日には地域・日本人学生を前に発表を行なった。発表テーマは以下のようである。

- ① 徳島城に対しての意識と認識
- ② 徳大生の大学生活について
- ③ 阿波踊り
- ④ 阿波弁

### 日本事情Ⅳ[後期]

人数： 8名（中国 5名、韓国 2名、ベトナム 1名）

使用教材： ・テーマに関連した書籍より抜粋  
例：「川と人間－吉野川流域史－」平井松午（1998） 溪水社  
「徳島県の民話」日本児童文学者協会編 他  
・ゲストスピーカーによる作成教材

メインテーマを「徳島を知る－吉野川を通して」とし、徳島のシンボルである吉野川について、いろいろな視点からのゲストスピーカーの講義を受けると共に、自分達のテーマを決め、調査し、最終的に発表を行なった。ゲストスピーカーによる講義は、①「吉野川概要」国土交通省・野町 浩②「吉野川と農業」農業大学校・野田靖之③「第十堰問題について」姫野雅義④「吉野川で遊ぶ－吉野川の美しさ・楽しさ」野田知佑であった。また、地域・学生サポーターに「吉野川への思いや思い出」について聞き取り調査を行なった。アンケートの作成・集計分析方法も学習した。学生達の発表は、以下のようである。

- ① 吉野川とスポーツ
- ② 吉野川の洪水について
- ③ 吉野川の農業
- ④ 吉野川の自然環境
- ⑤ 吉野川と漢江の大橋
- ⑥ 北海道に移った徳島の藍